

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

松本市議団が本学を研修視察

歯科保健衛生対策の理解深める

松本市議会の歯科保健衛生対策議員連盟に所属する議員21人が10月28日（火）、本学を研修視察に訪れた。高木宣雄病院長の講演「地域医療連携における口腔管理」を聴講して歯科保健衛生の重要性をあらためて認識するとともに、病院や総合歯科医学研究所などの見学を通じて本学に対する理解を深めた。

創立30年記念棟「常念岳」の間において、松本市議団一行を、矢ヶ崎雅理理事長をはじめ川原一祐学長、長谷川博雅歯学部部長、高木病院長、矢ヶ崎克彦法人主事・病院事務長らが出迎えた。

矢ヶ崎理事長は、市議団の訪問を心より歓迎し、大学名のいきさつをユニモアを交えながら語りつつ、本学設立までの苦難の過程、開学そして現在に至るまでの道のりや大学の概要を説明した。さらに大学の未来に向けて夢と決意を述べ、「今後も皆様のますますのご協力とご指導をお願いします」と結んだ。

川原一祐学長は「私立の各大学には建学の理念があり、本学もその理念にしたがって学生の人格陶冶をはかり、教育や研究にいそしんでいます」と話し、荻谷昭松本市長とは信州大学時代に旧知の間柄であったエピソードも



松本市議視察団の訪問を歓迎し大学正面玄関にて本学役員と記念撮影

披露して、会場を和ませた。次いで長谷川歯学部部長は、長野県の大学・地域連携事業に本学の「口の健康維持」が採択されたことを説明し、「松本市とも包括連携協定を締結させていた



松本市議視察団に高木病院長が講演

ば、食べ物をおいしく味わえ、誤嚥性肺炎などを予防し健康を保てます」と、地域医療において口腔の果たす役割が大きいことを解説した。また、「これまで歯科の役割は、口腔疾患の治療が主でしたが、これからは口腔機能の治療改善やリハビリ、

口腔ケア、口腔保健指導、食の支援など多岐にわたってきます」と示唆し、急性期から回復期、在宅診療に至るまで、地域全体で切れ目のない医療を提供していくためには、「これまで以上に在宅診療が重要で、歯科間、他職種との連携・協働を推進していきたい」と強調した。

「静かな静かな里の秋
お背戸に木の実の
幼いころの、農村の情景を思い出させる唱歌である。そよ風にゆれるコスモス、木枯らしの後の暖かな日差しを浴びて、石垣で背中をじっと暖める赤トンボの姿が晩秋を演出してくれる。11月は冬の寒さに向かう前の暖かさを味わえるひとときで、時々穏やかな小春日和の天気が見れる。暖地と寒地の違いはあるが、11月は気象災害が少なく、一年の中で最も穏やかな季節である。下旬には落ち葉の季節を迎えるが、そんななかで白い茶の花が咲きはじめる。

薄井陽平先生が本学の「建学の理念」を交え 東日本大震災の歯科ボランティア活動について報告

アレキサンダー30周年記念大会

9月16日（火）から18日（木）、アレキサンダー・ウィック・R・G先生の矯正理論を学ぶ「アレキサンダー研究会」の30周年記念大会が東京の椿山荘で開催された。テーマは「Long-term stability—30年で学んだこと・次世代に伝えたいこと」と題し、アレキサンダー先生の基調講演で積み上げられた1万7000症例の中から、治療後20年以上経過した300症例を検討し、長期安定性に必要な要素について解説が行われた。

アレキサンダー先生は後進育成にも熱心で、先に行われたアレキサンダーデイシプリン20の原則を学ぶプリンシプルコースには本学からも多くの先生方が参加。インストラクターには本学5期生の高木伸治先生も加わり直接指導と特別講義を行った。アレキサンダー先生のご子息



ムーディー先生に紹介される薄井先生（左）

のムーディー・アレキサンダー先生は、「[Giving, Leveraging and Change the World]と題し、既存の枠を飛び出すことの重要性を講演。その中で本学24期生・薄井陽平先生を指名し、薄井先生が体験した東日本大震災の歯科ボランティア活動について話すよう促した。

「さきざりす 忘れ音に啼く火燵かな」芭蕉。忘れ音は広辞苑には「季節を過ぎた虫などの鳴く音」とある。オコロギの終鳴は中部地方は10月、その他は11月で12月になる所もある。北国や山国はいま「忘れ音の季節」に当たる。

木の葉が落ちるにつれて見上げる空が広くなってくる。季節は晩秋から初冬へ。

お天気歳時記

元日本気象協会調査役
お天気コンサルタント

有り賀 淳し

主張

ベルリンでの国際障害者歯科学会議

10月2～4日にIADH (International Association for Disability and Oral Health = 国際障害者歯科学会) の第22回総会および学術大会がドイツのベルリンで開催され、筆者はOBの先生方とともに出席した。筆者が初めて参加した82年の第6回トロント(カナダ)大会当時は、DH = Dentistry for the Handicappedで、精神発達遅滞や脳性麻痺などの発達障害の子どもたちを主な対象とし、研究や臨床経験も比較的に範囲に限られていたものだった。

しかし、近年では各国での人口の高齢化の進行とともにQOLを支える柱として「歯科的健康」の意義が強く認識されるようになったためか、より広範なSpecial Needs in Dentistryの概念が定着し、対象は「老年

歯科」や「有病者歯科」、さらには歯科恐怖症や神経症患者などに対する「心療内科的歯科」あたりにまで広がってきている。今回の国際学会でも、そういった状況を反映して、参加者は40数カ国(地域)から800人を超える盛会となった。

国際的に見れば、日本の障害者歯科はかなり遅れてスタートし、73年にわずかな数の歯科医師ら(筆者もその一人)によって「日本心身障害児者歯科医療研究会」が設立されたのだが、その後の発展は目覚しく、84年に「日本障害者歯科医学会」に名称変更し、現在では会員数4千数百人を擁して、日本歯科医学会のなかでも最も活発な活動を展開している分科会のひとつとなっている。

今や対象は狭義の「障害者」にとどまるものではないという

10月3日はドイツ再統一記念日

「障害者歯科」の話はこれぐらいにして、分断国家の悲劇の象徴ともいえる「ベルリンの壁」について記してみたい。

1945年5月、首都ベルリンに突入したソ連軍との熾烈な市街戦に敗れて、ヒトラー総統は自殺し、ドイツ第3帝国(ナ

チス)は無条件降伏した。その結果、ドイツ領土の西半分(後のドイツ連邦共和国=西ドイツ)は米、英、仏が、東半分(後のドイツ民主共和国=東ドイツ)はソ連が占領軍として支配することとなった。

ただし、首都ベルリンは位置的には東ドイツ内部にあるにもかかわらず、4国で分割占領することとされた。

ソ連の苛酷な賠償取立ては、東西での大きな経済格差を生じ、やがて東ドイツ内では唯一の「赤い海に浮かぶ自由の島」ともいえる西ベルリンへ脱出する人びとが増えてきたのである。冷戦が激化するなかで、相次ぐ国民の逃亡に体制の危機まで感じた東ドイツ政府は、61年西



ベルリンの壁と筆者

90年になると、東ドイツでは自由選挙によりドイツ統一を唱える「ドイツ連合」が政権の座につき、西側との協議を進めて、10月3日に東の5州がドイツ連邦共和国に加盟するという形で再統一が成功した。(笠原 浩)

「レポートの意義とその評価法」 ループリックの考え方を学ぶ

第5回FD研修会



本学教員の意見を聞く加藤先生(右)

第5回FD研修会は10月2日(木)本館601教室において開催され、信州大学高等教育研究センターの加藤善子准教授が「レポートの意義とその評価法」と題して講演した。

加藤先生は、学生をその気にさせて勉強させる評価法として、ループリックについて解説した。ループリックとは、学生の学習到達状況を評価するための指標のこと。たとえばレポートの採点ならば、「内容」、「構成」、「文法・表現」、「引用」など、採点基準の項目を設け、その点数配分を明示する。自分の点数が細分化されて示されれば、学生はどの部分ができていてどの部分が足りなかったかが分かり、自分の課題(学習の方向性)やゴールまでの道筋が見えてくる。教員にとっては採点

のブレがなくなり効率化にもつながるといふ。

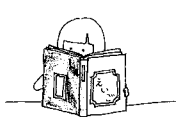
参加した教員からは「学生が加点のテクニックに走り過ぎて考える力をなくすこともあるのでは」という声も挙がったが、加藤先生は「たしかに高学年に對してはさまざまな評価法が必要でしょうが、ループリックは評価が透明化・客観化されるため、学生も納得し、伸びた部分は達成感と自信につながり、初年度教育の補助としては有効だと思います。また、レポートやテスト結果は点数をつけたらすぐ返すことで、授業の満足度はアップします」と説明された。

ループリックの考え方と実践を学び、学生が主体的に学ぶようになるための成績のつけ方を、あらためて考えさせられるFD研修会となった。

ところで、パズルといえば他にも、crossword(クロスワード)などがありますが、このパズルは100年ほど前、ニューヨーク市の新聞に掲載されたのが最初だそうです。その頃はword crossと言われていましたが、いつの間にか順番が逆になり、現在のようにcrosswordと言ふ名前になりました。

さて、先ほどのジグソーパズルですが、私が完成したパズルを見せると、もう終わったんですかと言われ、今度は1000ピースのパズルと取り替えてくれました。早速やりたいとは思いましたが、今度こそは冬休みの楽しみとしてとって置こうと思います。

カールソンの英語!!!



歯科麻酔学講座・石田麻依子助教 デンツプライ賞受賞 第42回日本歯科麻酔学会総会・学術集会



受賞を喜ぶ石田助教(中央)

第42回日本歯科麻酔学会総会・学術集会、第7回FADA S(アジア歯科麻酔学会連合)学術大会が10月10日(金)から12日(日)にかけて、新潟市の日本歯科大学新潟生命歯学部において開催された。この会期中

に本学歯科麻酔学講座の石田麻依子助教が、多数の学会発表演題(基礎部門・臨床部門)の中から優秀発表者として選出され、デンツプライ賞を受賞した。演題名は「三叉神経節細胞の立体三次元構築」で、ラット三

又神経の末梢枝を各部位で切断し神経損傷を与えた動物モデルを作成。その動物より三叉神経節の標本切片を作成し、神経損傷マーカー(ATF3)で受傷した神経細胞の神経核を免疫組織化学にて可視化、光学顕微鏡下で組織像を取り込み、さらに画像ソフトを駆使して三次元構築し、損傷部位と三叉神経節受傷細胞の関連を詳細に調べた研究である。多数の三叉神経節神経細胞を隔々まで画像データとして取り込み、三次元構築し解析するという多大な時間と労力を要する研究に根気強く取り組み発表に至った。発表内容は今後の三叉神経領域の研究に大きく寄与するものと高い評価、賞賛を受けた。

授賞式では日本歯科麻酔学会一戸達也理事長から石田助教に楯が授与された。さらに学会中、3年後の2017年に本学歯科麻酔学講座・澁谷 徹教授が大会長を務める学術集会の開催が決定され、今回の石田助教の受賞は学会準備に向けての輝かしいスタートを切ったともいえる。

〔口腔解剖学第1講座 教授 金銅英二〕

歯科医師国家試験出題基準などを討論

全国公・私立歯科大学歯科放射線学教育研究会

平成26年度全国公・私立歯科大学歯科放射線学教育研究会が8月23日(土)、24日(日)の両日、安曇野市の穂高ビューホテルにて開催された。研究会は今年で第15回を迎えており、第2回からは毎年、本学歯科放射線学講座が主管となり開催している。



歯科医師国家試験問題の改善に向けて活発に討論

本年度はメインテーマとして、「コアカリキュラムと歯科医師国家試験出題基準の問題点・今後の改善に向けて各大学の歯科放射線学カリキュラムから無くなっている項目や入れるべき項目」について、実際の歯科医学教育を担当されている東京歯科大学・和光 衛准教授、大阪歯科大学 清水谷公成教授、日本大学・本田和也教授、岩手医科大学・小豆嶋正典教授らから講演をいただき、今後の改善に向けて総合討論を行った。

特別講演は、日本大学歯学部・新井嘉則教授に「保険導入後の歯科用CTの現状と問題点について」ご講演いただき、今後の画像検査のありかたと歯科放射線学会としての意見について討論検討を行った。

また、2日目は「卒前教育の総括評価」と題して、東京歯科大学・和光准教授と北海道医療大学・中山英一教授が講演した。2日間にわたり、活発な質疑応答と意見交換が交わされた。

〔歯科放射線学講座 准教授 教務研究 内田啓二〕

歯科保存学講座・吉成伸夫教授が出張講義 佐久長聖高校で「歯科医療の現状や魅力」伝える



高校生に歯科医療をテーマに模擬講義する吉成教授

歯科保存学講座の吉成伸夫教授は10月17日（金）、長野県佐久市の佐久長聖高校に招かれ、医療系分野に進学を希望する1、2年生55人を対象に「歯学と医学の深い関係―理系の学問を知る」と題して、60分2コマの模擬講義を行った。

吉成教授はまず、歯学とは、口の中に関する外傷、病気の原因についての知識を蓄積し、予防、診断、治療の方法を開発する学問であることを説明し、臨床研究、教育に分けて解説した。臨床では、歯周病の発症、進行、治療の様子をスライドで示しながら詳細に説明。また、国で推進している「8020運動」について触れ、80歳で20本以上の歯が残っている率は年々増加しているが、歯周病にかかった状態で残っているという問題を提示した。

次いで、本学総合歯科医学研究所と信州大学が共同で行った骨髓の細胞を用いて骨になる細胞に培養し、顎骨を再生するという研究を説明し、歯を再生する

特別養護施設を訪問しお年寄りとふれあう 第1学年入門歯科医学実習

10月2日（木）から4週にわたり、第1学年生は4班に分かれ特別養護老人ホーム桔梗荘を訪れた。桔梗荘は、昭和45年に松塩筑木曾老人福祉施設組合最初の特別養護老人ホームとして開所し、平成11年に本学キャンパス隣に移転しており、本学は歯科医療において施設と連携をはかっている。

訪問は「入門歯科医学実習」の授業の一環として行われ、主な内容としては施設見学・ボランティア活動・コミュニケーション実習を行う。実施にあたり同施設の介護支援専門員・永原和宜さんと入門歯科医学・谷内秀寿講師が綿密な実施打ち合わせを行い、学生は入所者の方々とコミュニケーション実習の



入所のお年寄りとお話する学生たち

し、最悪死につながることを説明。歯周病にならないよう3カ月に1回は歯科医院に通うよう生徒たちに勧めた。

最後に、歯学と医学の深い関係について、歯周病が原因で誤嚥性肺炎、低出生体重児、早産、心臓血管疾患、動脈硬化、糖尿病、生活習慣病などを引き起こす

みならず、ボランティア活動も学ぶ形となっている。

各班はキャンパスイン201教室に集合し、総合診療室・安東信行講師からお年寄りとのコミュニケーションの取り方などを学んだ後、桔梗荘に赴いた。手指消毒を行ってから施設に入り、永原さんから「今の豊かな日本を築いた人生の先輩として尊敬の念を持って接していただきたい」と施設の現状、ボランティアの状況などの説明を受け、施設内を見学。その後ボランティア活動として入居者の部

ひたむきな精神で専門職をめざす 歯科衛生士学科第38期生戴帽式

（総合診療室 助手 小上尚也）

障害者歯科学講座・小笠原 正教授 日本の障害者歯科における教育システムを解説 台湾障害者歯科学会

9月20日（土）、21日（日）の2日間にわたって、台湾の台北市で台湾障害者歯科学会が開催された。

20日午後からのシンポジウムでは、「各国の障害者歯科教育」をテーマに、台湾、韓国、日本、アメリカの各4人のシンポジストが、障害者歯科における歯学部教育から卒業教育の現状について発表し、日本のシンポジストとして本学障害者歯科学講座の小笠原 正教授が英語で講演された。

小笠原教授は、まずWHOと日本の障害者基本法で定義されている「障害とは」について話し始め、障害者と歯科との関わり、障害者歯科の歴史、各大学の障害者歯科のある講座・診療



シンポジウムで講演する小笠原教授

学ぶ場合の2つの選択肢があり、日本障害者歯科学会が取り組んでいる卒業後の研修システムと認定医、指導医の現状についても報告がなされた。

また小笠原教授は、歯学部教育における摂食嚥下リハビリテーションの講義と実習についても説明され、その内容に台湾や韓国の参加者が高い関心を示し、多数の質問が寄せられた。障害者歯科医療に対する在学中および卒業後教育システムは各国それぞれ相違点があった。台湾では、障害者歯科教育は5年生から始まり臨床見学を行い、

障害者歯科に関する臨床実習は6年次に2週間行う。卒業2年間は、PGY（Post-Graduated Years）を行う。韓国では、歯学部教育の中で独立した障害者歯科を教える講座が11歯科大学中7大学しかなく、残りの4大学では小児歯科の授業の中の一環として教えている。アメリカ合衆国では、4年次に臨床実習を行い、PhD取得前にMaster's degreeの取得がある。そして、それを得るためOnline Programを導入していることなど各国の相違点が多数あった。

私自身4ヶ国での障害者歯科における歯学部教育から卒業教育の相違点を比較することができ、また、日本の障害者歯科の位置づけを知ることができた。このシンポジウムは、参加者にとってそれぞれの国の障害者歯科医療の発展に寄与できる良い機会となったと思われる。

（総合診療室 助教 藤本仁彦）

目標に向けて 習熟度を確認 三者面談を開催



教員の説明を聞く学生とご父母

学生とご父母と大学とで話し合う三者面談が10月4日（土）に体育館で開催され、第1学年から第6学年までの学生252人とご父母276人の計528人が参加した。

面談は1組20〜30分かけて行われ、学年主任、同補佐と科目担当者が個別面談を行った。学生は今後の履修科目の内容や学習方法、学生生活全般などについてのアドバイスを熱心に聞いていた。また、第6学年生は、卒業試験、歯科医師国家試験へ

衛生学院歯科衛生士学科第38期生の戴帽式が10月7日（火）、本館7階講堂で厳粛に行われた。22日から大学病院で始まる臨床実習を前に、歯科衛生士という専門職を目指す上での気持ち、新たな一歩を踏み出すための意気込みを新たにするセレモニーで、役員、教職員、第1・3学年生が見守るなか、第2学年生35人が一人ひとり壇上に進み、笠原浩学院長より薄いピンク色のキャップを授かった。

笠原学院長は挨拶で「キャップは人を助ける医療人の証。自覚と責任をもって取り組んでほしい。口腔ケアを専門職とします」と励ました。川原一祐学

向けての取り組み方や学習方法など教員から指導を受けた。今回の三者面談に参加できなかった学生については、学年主任が学生と二者面談を行うことにしている。



笠原学院長からキャップを授かる

Alumni News

松本歯科大学校友会

岐阜県支部

1期生・高木宣雄先生の 本学病院長就任を祝う

秋の涼しさも感じられるようになった9月20日(土)、「高木宣雄先生松本歯科大学病院長就任祝賀会」を、岐阜市のホテル「グランヴェール岐阜」にて開催した。

高木先生の病院長就任をお祝いしたいと、岐阜県内各地から会員23人と愛知学院大学歯学部・朝日大学歯学部同窓会の先生方、そして岐阜県歯科医師会有志の



挨拶する高木病院長

13人の先生方にも参加していた。

1期生の高木先生は岐阜市の開業医であるにもかかわらず、この4月より病院長に就任され、これは会員にとって誇りであり、在任期間中に何とか祝賀会を開催したかったという趣旨説明が司会の恩田眞司専務理事(7期生)からあった。

祝賀会は正村光陽副会長(2期生)の開会のことばで始まった。渡辺泰弘岐阜県支部長(1期生)の挨拶のあと高木先生から、病院長を引き受けられた経緯や、長野県塩尻市の病院までの通勤の苦労話などの話があった。

続いて伊藤三智子先生(2期生)から高木先生に活躍を期待

大学院セミナー

近畿大学・森本康一先生が講演 「細胞と「ラーゲン」の接着には二面性がある」 ―分子から細胞レベルまでの解析―



講演をする森本先生

9月19日(金)、近畿大学・生物理工学部遺伝子工学科の教授・森本康一先生による大学院セミナーが行われ、新規に発見

すべく大きな花束が贈呈された。村上武政監事(1期生)により乾杯の音頭が取られ、祝賀会が始まった。会員らは高木先生を囲み、近況や思い出話に花が咲き、笑い声や笑顔で包まれた。楽しい宴もあつという間に過ぎ、高木先生のご活躍を祈りながら、原 正紀副会長(1期生)のお礼の言葉と万歳三唱で閉会となった。

(岐阜県支部 8期生 高橋雅之)

されたLow Adhesive Scaffold Collagen (LASCo) の同定と特性についてお話をいただいた。

森本先生は京都大学大学院農学研究科を卒業されたのち、近畿大学生物理工学部に移られ、細胞とコラーゲンの接着に関わる分子構造レベルの機序について先進的な研究をされている。特に、コラーゲンの構造変化を解析しながら生命現象の神秘が知れるのではないかと、コラーゲンが細胞機能にどのように影響するかについて探求している。

I型コラーゲンは細胞を支持し互いに結合させる結合組織の主たるタンパク質で、細胞に接着場を提供し増殖や分化などを正常に維持する機能がある。この現象から既にいくつかのコラーゲン受容体が明らかにされているが、最近、先生方の研究チームは細胞が接着するの

を嫌うI型コラーゲン (Low Adhesive Scaffold Collagen, LASCo) を調製する処理方法を見出した。

このLASCo上で培養すると、複数種の細胞や間葉系細胞がES細胞の様に自発的にスフエロイド体を形成する特異的な現象を発見。特にMSCsのosteoblastsへの分化誘導に与えるLASCoの効果は強力で、骨誘導因子や薬剤なしで分化誘

導できる画期的な発見である。現在、動物の骨欠損部へLASCoを付与した材料を埋植し骨再生性誘導能を解析中である。

今後は、骨形成能ばかりでなく、骨代謝の側面から破骨細胞への影響なども検証していく予定であり、今までに報告されていない新コラーゲンの特徴と有用性に関して、本学との共同研究に期待が寄せられる。

(口腔インプラント科 准教授 八上公利)
(健康増進口唇学講座)

NEW FACE

本年度新しく職員の仲間入りを された大学病院で働く3人の歯科 衛生士さんをご紹介します。

藤沢 汐里さん
茅野市出身

医療に携わる仕事に就きたいと思い、さまざまな職種を調べていたところ、歯科衛生士さんに話を聞く機会があり、話を聞

くうちに興味をもつて歯科衛生士となりました。

患者さんや付添の方への気配りと心遣いを日々学習し、先生や先輩方からの教えをひとつでも多く身につけていきたいです。治療の恐怖から手を「ぎゅつ」と握ってくる小児の患者さんに優しい対応を心がけています。

宮林 里帆さん
塩尻市出身

歯科助手の経験がある母の勧めや、お世話になった歯科医院の歯科衛生士さんに憧れ、この道に進みました。

少しずつ仕事にも慣れてきましたが、まだまだ未熟なところが多く日々が勉強ですが、処置後の患者さんから笑顔で「ありがとう」と言ってもらえることがうれしいです。

一日を大切に知識や技術の向上に努めていきたいと思っています。

宮島 愛さん
長野市出身

小学生のころ、歯科医院を訪れた時に優しい歯科衛生士さんが笑顔で話しかけてくださり、私もすてきな歯科衛生士になりたいと思いました。

再来する患者さんに顔を覚えていただき、笑顔で話しかけてくださったときは、自分の憧れていた歯科衛生士さんに少し近づけたようで、とてもうれしく思います。

電話対応や敬語の使い方が難しいですが、がんばります。

人事異動

〔退職〕 8月10日付
平野 友太(事務局大学病院事務局(健康増進指導士(契約職員))
9月30日付
木曾有紀子(専務助教(口腔腫瘍学講座)(支援センター(校友))
林 詳子(父母会事務主任)
鈴木 友子(看護部室看護師)

〔採用〕 10月6日付
橋本 桂子(看護部室看護師(契約職員))

認定資格

2014年10月1日

塩原 則子(事務局図書事務課主任司書)
ヘルプサイエンス情報専門員 基礎
特定非常勤活動人 呆医学図書館協会

11月行事予定

8日(土) 公募制推薦入試
指定校推薦入試
校友子女入試
12日(水) 献血
16日(日) 一日体験入学
18日(火) 防火訓練
26日(水) 28日(金) 大学院発表会
29日(土) 第79回松本歯科大学学会例会

留学生受け入れから10年・発展に期待して

父母会韓国支部総会が開催

本年2月23日(日)に父母会韓国支部が発足した。新支部開設後、10月18日(土)に初の総会(李 恵淑会長)が開催され、本学より長谷川博雅歯学部長、中村浩彰教務部長が出席した。総会はソウル駅ビル3階のレス

トラン「T園」にて開かれ、釜山、水原、ソウル市など各地から留学生のご父母11組が集まった。総会終了後、大学関係者も含め16人が懇親会に出席し、和やかな内にも多くの意見交換がなされた。

また、事前に希望を募り、総



(事務局企画課 学生事務担当 斎藤 白井 孝彦)

韓国からの留学生を受け入れて10年が経ち、益々支部の重要性を感じる一日であった。

長野県の 「大学・地域連携事業」 に採択される

長野県が公募した「大学・地域連携事業」に、本学が申請した事業が採択された。事業名称は「口の健康維持でめざす地域の健康寿命延伸」。

シンポジウムや専門職シリーズ講座、カムカムメニュー写真コンテスト、市民公開講座、アンケート調査などを通じて、食生活や歯科保健に関する啓発活動を展開するとともに、口の健康に関する基礎的研究を推進し、口腔機能増進活動の推進をめざす。

専門職シリーズ講座

日時：11月18日(火) 午後6時～7時30分
会場：本学図書館学生ホール

「疾患の多様化に対応する口腔ケア」

—口腔ケアは肺炎予防だけじゃない—
藤田保健衛生大学歯科教授 松尾浩一郎

大学・地域連携事業 シンポジウム 『口の健康維持』でめざす地域の健康寿命延伸

日時：11月27日(木) 午後3時～5時50分
会場：ホテル中村屋

◇塩尻市・松本歯科大学 包括連携協定調印式

◇講演

- 1 「わが国の歯科保健活動」
厚生労働省歯科保健課長 鳥山佳則
- 2 「歯科大学と共にすすめる
長野県での歯科保健活動」
長野県歯科医師会会長 春日司郎
- 3 「松本歯科大学の地域連携事業」
松本歯科大学教授 増田裕次

◇パネルディスカッション

「地域連携で歯科大学に望むこと」

コーディネーター 増田裕次

- パネラー
- ・厚生労働省歯科保健課長 鳥山佳則
 - ・長野県歯科医師会会長 春日司郎
 - ・塩尻市健康づくり課長 三溝 隆
 - ・信濃毎日新聞編集委員 飯島裕一

Economic News

内外の経済 10月30日付

株価	米国の為替相場と各国定期預金金利 (3ヵ月物)
日本円 15,586.33円	米ドル 109.70円 0.01%
米国ドル 16,974.31ドル	英ポンド 175.05円 0.10%
▶金地金店頭価格 (消費税込み)	スイスフラン 114.95円 0.01%
売り (1グラム) 4,658円	ユーロ 138.40円 0.01%
買い (1グラム) 4,572円	タイバツ 3.42円 0.10%
▶白金地金店頭価格 (消費税込み)	日本円 — 0.01%
売り (1グラム) 4,824円	(シティバンク調べ)
買い (1グラム) 4,695円	



公募制推薦入試
指定校推薦入試 11月8日(土)
校友子女入試

●出願期間 10月27日(月)～11月5日(水)
●試験場 本学 (創立30年記念棟3F)

一日体験入学

11月16日(日)・12月7日(日)

開催時間 9:45～15:00 (受付 9:15～)

- キャンパスツアー ●ランチ体験
- 大学紹介 ●模擬実習 ●進学相談

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp